

南三陸・気仙沼 ～海への森と自然の再生

自然再生活動部会／中村華子

2012年から一緒に活動させて頂いている気仙沼市の「海への森をつくろう会」。2013年にNPO法人として登記され、ますます活発に、継続的な活動を展開されています。

2014年10月12日、気仙沼市波路上・階上地区で第3回「海への森の植樹祭」が開催されました。全国からボランティアなど300人を超える方々が参加して植樹を行いました。今回の植樹祭で使用した苗木はイオンが実施している「苗木の里親キャンペーン」で、全国の事業所で顧客や従業員へ配り、約1年かけて育ててもらった苗木だそうです。会場には苗を育てた里親の皆さんから寄せられたメッセージが展示されました。



第3回
海への森の植樹祭

開催日時：2014年10月12日(日)
9:00～12:00(木まで)

募集人数：300名
会場：気仙沼市波路上杉ノ下
参加費：無料 雨天決行 約伊勢湾

主催：NPO法人 海への森をつくろう会
共催：イオン株式会社、ホーマック株式会社、創設法人 海への森創設委員会
協賛：気仙沼市、気仙沼市環境委員会、気仙沼市環境課、株式会社 三輪製菓、NPO法人 どんのEプロジェクト、株式会社 芽生製菓、NPO法人 海への森の里親、気仙沼市環境再生協議会、気仙沼市環境再生協議会、気仙沼市環境再生協議会、気仙沼市環境再生協議会、気仙沼市環境再生協議会

問い合わせ先：海への森をつくろう会 まで
電話 0226-26-9091 Fax 0226-29-8844
www.npoenergy.or.jp



定期的に被災地へボランティアバスを運行して、海辺や農地の整備作業、イベントの手伝いや交流会の開催などを行っていらっしゃる「NPO 法人 かながわ311 ネットワーク」さんが今回もバス一台で参加。植樹祭のあともみなさんで苗やポット、土嚢袋などの片付けなどの作業もして下さいました。

種苗の採取と育成のお手伝い

私たち山の自然学クラブでは、富士山森林復元活動などに携わっている自然再生活動部会のメンバーを中心に、種子採取や山取苗の採集、苗木の育成を少しだけお手伝いさせて頂いています。特に種子採取は現地を適切な時期に歩き回って、樹種に合わせた採取時期と方法でとらなくてはなりませんし、採取後の種子の扱いにも注意が必要なので、けっこう手間がかかります。しかも樹種によって発芽率が大きく異なりますので、あまりたくさんはできないこと・樹種もありますので、それにめげずに毎年続けることが大切です。

海への森をつくろう会さんの育苗ハウスには、付近から採取した種子から作った苗がたくさん大切に育てられています。作業はボランティアのみなさんにも支えられています。

苗を育てるのにはどのようなことに気をつける必要があるでしょうか。ハウス内で枯らしてしまっただけは元も子ありませんが、自然の森を再生することが目的ですので、植栽したあとに健全に育ち、しっかり根づくことも大切です。育てている苗を見てみましょう。右側に置いているのは形が細長く、側面に穴が空けてあるポットです。苗を外に出してみると、根の形が違



うことがはっきりわかります。種子から最初に出た根は、重力に従って下の方に根を伸ばします。その後、途中から分岐した根が側方に伸びていきます。そのときに、壁に当たったり、水があつたり、乾燥していたりといった「物理的な障害」があると根はそちらの方にはあまり伸びなくなります。ビニール製のポットは乾燥すると土から離れてしまったり、根にとっては物理的な障害になりますので、このような密閉型のポットで育てると根系はあまり発達しません。一方途中に穴が開けてあるポットは空気や水が通り、物理的な障害が少ないので、根系がよく発達します。根系が小さなまま育てた苗木は、できるだけ早く、根が小さく巻いてしまう前に現地へ植えてあげるようにしたいと思います。このように、現地の状況に合わせながらよく観察し、できるだけ健全な苗木をできるだけ多く育てて植樹に使用できるようにと思っています。



これからの植樹・森づくりに向けて

海べの森をつくろう会には、「自然と共に歩む生活を取り戻すため、森を再生しながら地域活性化のための活動をする」という活動趣旨に賛同して、たくさんの支援、参加者が集まってきました。これからもどんどん活動範囲を広げていって下さるものと思います。2014年9月には気仙沼大島でも植樹を行いました。そのほかの近隣地域へも活動範囲を広げられています。

2015年には、2013年11月に新生オープンした陸前高田のキャピタルホテル1000へのアプローチ道路を会場に植樹を行うことを予定しているそうです(右写真)。これからもぜひお手伝い・参加させて頂きたいと思っています。



始めよう！地元学 ～現地講座の共催

2014年7月には2013年と同様に、海べの森をつくろう会さんに現地参加者の募集や当日の運営をして頂く形での現地講座を実施しました。講座の見学内容や詳しい日程は「現地講座の開催報告」にて報告致します。前回もそうでしたが、現地参加のみなさんがたいへん熱心に講師の話聞いて下さるので、非常に充実した取り組みであると感じています。三陸復興国立公

園の範囲が決まり、気仙沼でも多くのプログラムが実施されることでしょう。また、三陸ジオパーク推進協議会もますますさかんに活動しているようです。気仙沼地区は三陸ジオパークの南の玄関にあたります。気仙沼周辺は見どころがたくさんあるので、まだまだ何回でも現地講座が楽しめそうです。



これから現地のみなさんの希望を聞きながら、私たちにできる範囲で企画し、一緒に楽しく活動させて頂きたいと考えています。

↑ 三陸ジオパーク推進協議会 HP のキャプチャ <http://sanriku-geo.com/>

美しい自然に満ちた郷土を取り戻す取り組み

標記は海への森をつくろう会さんの活動キャッチフレーズです。山の自然学クラブ風に言わせて頂くと「ここから始まる」でしょうか。2015 年にも少しずつ開拓、開発していきたいと思えます。そしていくつかのこころみは実現する予定です。

【果樹の育成】2014 年 1 月に海への森をつくろう会の菅原さんと果樹農園とワイナリーの見学をしました。上段写真の渋川市のルンズ・ファームと足利のココ・ファーム（右）です。



下段は植樹祭の苗木の一部を供給して下さっている園芸やさんの三本木の農園・花見山です。さくらんぼ、ブルーベリーなどたくさんの果樹が植えられています。



気仙沼ではまず、寒冷地でも育てやすいブルーベリー等から育ててみようということになり、2015 年には一部導入することになりそうです。

【地産食材の新しい活用】「新しい東北」先導事業で登米町森林組合が導入した太陽熱木材乾燥庫・ToSMS を 6 月に見学させて頂きました。石油製品を使うことなく、自然エネルギーである太陽熱を利用して木材を乾燥させながらストックを同時に行う、いわば乾燥機つき倉庫です。これの小型版がすぐ脇に作られていました。名付けて“ecochan”。太陽熱農林産食材乾燥庫です。木材乾燥の技術を応用して、登米の特産品であるシイタケ等キノコ類をはじめ 20 種以上の食材を試したそうです。「医食同源プロジェクト・宮城カルテ食堂」などと連携してレシピ開発もしているそうで、森林組合の竹中さんをはじめとする登米のみなさんの先導性あふれるエネルギーに感嘆するばかりです。



↑ 頂いたパンフレットから



6月にお邪魔した、一関市大東町の“工房地あぶら”さん。

「人にやさしい、自然にやさしい 農業をめざして」をモットーに、在来品種であるキザキノナタネを使用した菜種油を中心に製造販売されています。日本の菜種油は自給率1%にも満たないそうです。溶剤を使用せず、圧力をかけて染み出してきた油を集める圧搾方法です。こちらの菜種油を頂いて帰りましたが、その味の違いに驚きました。芳ばしいよい香りで、しかもさらさらしています。この違いに、気仙沼のみなさんも驚いたそうです。現地に畑が十分確保できたら、在来品種の菜種栽培をしたいと話しています。そうすれば、春には海を背景に、見事な菜の花畑が楽しめることでしょう。

【海べらしい風景を目指して】2014年9月に南蒲生モニタリングネットワークが主催して仙台市で行われた、防潮堤の工事前に採取した海浜植物を現地へ



戻し植える活動に参加しました。この活動は仙台在住の研究者が中心となって組織されており種苗会社の知人等も協力していますので、当日お手伝いがてら見学させて頂きました。津波あとの砂浜の状況、植物の再生具合は各地でかなり違いが見られるようです。今後の推移を注視したいと思います。



最近、岩井崎を中心に海岸植生を見て回っています。植樹祭の翌日に、ハマナスの種子を少し採取することができました。育てて現地へ戻していきたいと思っています。



10月の植樹祭終了後、会場から南側の海を見下ろします。見晴らしのいい日は金華山を望み、気持ちのよい風が吹く潮騒の丘。ここをみんなが集まる、活気あふれる土地にしていきます。